

# ねらいと計画性をもって授業をしていますか？

あれやこれやで忙しい毎日・・・でも、大切な授業に臨むためには、日々行っている教材研究をこういった表にまとめて、意図的な計画的な授業実施と、児童・生徒の状況に応じた柔軟な授業改善のサイクルを回すことが不可欠です！！

簡易版！

単元構想表 教科（ ） 学年（ ）年 作成者（ ） 期間 ○月○日～○月○日

単元名：

単元で付けたい力：

時	めあて・課題	学習内容・流れ	まとめ・ゴールの姿	児童・生徒から引き出したい振り返り	教員の振り返り(授業後)

単元ゴールの姿：

中部教育事務所HPより

## STEP1

まずは、この単元では、児童・生徒にどんな力をつけるのかを整理することが必須！  
中部教育事務所の教材研究のステップ、学習指導要領を参考に、作成してみてください。

## STEP2

次に、単元を通して育成する力が身に付いた児童・生徒の姿を具体的に描いておきます。

## STEP3

次に、STEP 1、2から逆算しながら、1時間ごとの到達点やアプローチの仕方を考えていきます。

1 単位時間ごとに、付けたい力が身に付いた児童・生徒が書くであろう振り返りを予め想定しておくことで、次時の授業改善の糸口が見えてきます。

## 単元構想表はなぜ必要？

この単元構想表がないままでは、この単元で付けたい力の意識やその力を身に付けた児童・生徒の姿が不明瞭なまま、授業を行うことになり、授業改善にはつながらなくなってしまいます。  
タテ持ち校の教科会、教科間連携の中学校のチーム会、小学校のブロック会や校内研も空中戦になってしまいます。

## STEP4

本時の児童・生徒の振り返りを元に、次時以降の展開や個別の手立てを見直します。これが、具体的な授業改善のひとつの姿です。  
単元のはじめ、中、終わりの各段階で、その展開や手立てが、自校の児童・生徒に有効かどうか、吟味し、その時々のネクストアクションを決定し、行動化につなげるのが、教科会、チーム会、ブロック会等です。

この単元構想表（簡易版）の様式は、中部教育事務所のHPに掲載しており、ダウンロードして加工できるようにしております。各校種、学校の実情に応じて、展開のポイントを入れるなど、工夫してお使いください。大切なのは、授業改善のために使いこなすことだと思います。常時加除修正を加えながら授業の履歴となっていくこの表は、タテ持ち校の教科会、教科間連携校のチーム会、小学校のブロック会で、正味の授業改善の話につなげることができます。また、日々の管理職等の授業参観、外部からの訪問時の資料として、また、次年度の引継等の資料として活用できます。引継に使えば、現クラスの個々の児童・生徒理解や手立ての参考になりますし、教材研究の時間短縮にもつながります。

こういった単元構想表なしでは、学校全体としての授業の質の保証は難しいですし、上記のようによいことばかりですので、ぜひ、作成のうえどんどん活用していきましょう！

